

令和元年台風15号における鉄塔及び電柱の損壊事故調査検討WG（第5回）

－議事要旨

日時：令和2年1月20日（月）18：00～19：10

場所：経済産業省別館 312 各省庁共用会議室

出席者：

<委員>

横山座長、石川委員、木本委員、熊田委員、友清委員、中村委員、松井委員（五十音順）

<オブザーバー>

石田 一般社団法人日本鉄塔協会 専務理事

小寺 一般社団法人コンクリートパイル・ポール協会 ポール技術委員長

佐伯 総務省 電気通信技術システム課 安全・信頼性対策室長

（代理出席：村上課長補佐）

佐藤 気象庁 予報部業務課 気象防災情報調整室長

渡邊 一般社団法人送電線建設技術研究会 専務理事

<説明者>

稲月 電気事業連合会 工務部長

塩川 東京電力パワーグリッド株式会社 技監

議題：

1. 中間報告書（案）のパブリックコメント結果について
2. 台風15号における鉄塔及び電柱の損壊事故の原因調査、今後の対応について
3. 討議

議事概要：

1. 中間報告書（案）のパブリックコメント結果について
 - ①「中間報告書（案）のパブリックコメント結果について」事務局より資料1を用いて説明
2. 台風15号における鉄塔及び電柱の損壊事故の原因調査、今後の対応について
 - ①「鉄塔及び電柱の再発防止について」東京電力パワーグリッドより資料

2 を用いて説明

- ② 「個別論点について」事務局より資料 3 を用いて説明
- ③ 「技術基準の見直し、今後の WG の検討スケジュールについて」事務局より資料 4 を用いて説明

3. 討議

【議題 1 中間報告書（案）のパブリックコメント結果について】

○委員からの主な意見

- コメントは特になし。

○事務局からの回答

- 中間報告書として、経済産業省のホームページに掲載する。

【議題 2 台風 15 号における鉄塔及び電柱の損壊事故の原因調査、今後の対応について】

（鉄塔及び電柱の損壊事故の原因調査）

○委員からの主な意見

- 台風 15 号により倒壊した鉄塔の建替え強度は、技術基準で規定される安全率を上まわる 2.25 倍の裕度について評価。
- 最終的な荷重に対し、設計風速や風力係数、ガスト影響係数といった複数の方法により評価した場合、最新技術に照らしてどのように設計されたか確認が必要。

○説明者からの主な回答

- 例えば今回の風速シミュレーションでは平均風速 50m/s で評価したが、平均風速 60m/s の場合のシミュレーションの評価も可能。種々の評価方法は検討が必要。

（個別論点、技術基準の見直し）

○委員からの主な意見

- 「10 分間最大平均風速」の定義の明確化が必要。
- 地球温暖化に進展による強い台風の襲来の可能性もあるため、十分な気象データの収集が必要。地域風速の検討に当たっては、台風の経路変化や将来の台風の取扱い等の考え方の整理が必要。
- 地域風速の「地域」の粒度について、地形が考慮されている自治体の境界線とすることも一案。

- 特殊箇所の類型化・定義について、技術基準への反映に当たっては、「海岸から 25km 程度以内」、「主風向となる 8km 以内」等の具体的な数字の根拠を明確にすべき。
- 各事業者に対する指示内容（案）について、今般の倒壊鉄塔と同様の特殊箇所に鉄塔が立地している場合は、全て改修計画の提出を求めるのか明確にすべき。

○事務局からの回答

- 「10 分間最大平均風速」の定義を改めて整理。
- 台風の経路変化や将来の台風の扱い等に関する JEC の考え方について、次回 WG で説明。
- 特殊箇所の類型化・定義については、今後、電力会社による総点検の結果も踏まえながら、「海岸から 25km 程度以内」、「主風向となる 8km 以内」等の定義・根拠を明確化。
- 電力会社への指示内容（案）について、今回の倒壊鉄塔と同様の特殊箇所に鉄塔が立地している場合には、気流シミュレーションを行った上で、改修の要否を検討するもの。

（その他）

○委員からの主な意見

- 電力設備のインフラメンテナンスに関し、好事例を表彰し、水平展開することを経済産業省でも検討すべき。

○事務局からの回答

- 電力設備のインフラメンテナンスにしっかり取り組む事業者に対するインセンティブについて、前向きに検討する。

問い合わせ先

経済産業省 産業保安グループ 電力安全課

電話 : 03-3501-1742

FAX : 03-3580-8486

以上